

おにいちゃんありがとう

井上 いのうえ 愁稀 あきと 柊

ぼくは、こくごとさんすうのじゆぎようだけ、「なかよし」というところでべんきようしています。みんなとは、すこしちがうけどそんなこと、きにしないでいつもやさしくみまもってくれたり、わからないもんだいをおしえてくれたり、ふつうのようにぼくのあいてをしてくれます。そのことがうれしくて、たのしくてまいにちがおもしろいので、わらってばかりいるひがぼくにとってはだいすきです。ときには、けんかをしてばばや、ままにおこられています。ままは、ぼくがふつうじゃないのをきにしてるようで、ぼくよりおにいちゃんを、はげしくおこります。おにいちゃんは、「なんでゆきとだけをおこるの。」っていつてます。ままは、「あとであきともおこるよ。」っていいいます。おにいちゃんは、すぐ「あきとみたいにしようがいしゃになりたい。」っていいいます。ぼくはしようがいしゃじゃないとおもうけど、まわりからは、そうみえているんだとかんじてしまいます。そのあと、おにいちゃんは、「あきとごめん。あきとはすきでしようがいになったんじゃないんだよね。だいじょうぶ、どんなことがあっても、ぼくがあきとをまもるよ。」っていつてくれます。そんなことをいつてくれるおにいちゃんは、だれより

もたよりになり、かっこいいおにいちゃんです。でも、おにいちゃんにたよってばかりだけじゃいやです。だから、ぼくは、おにいちゃんみたいになれないけど、すこしでも、おにいちゃんにめいわくや、しんばいをかけたくないので、がんばって、ままにおこられないようにしていきたい。そして、「おにいちゃんはわるくない。」といえるように、ゆうきをだしてままたちにつたえたいです。「おにいちゃんは、ぼくのせいですがまんばかりしているんだよ。」って、まわりにいわれるけど、がまんはしないでほしいです。「こんなぼくは、うまれてこないほうがよかったんだ。」っていったときがありました。でもおにいちゃんに、「あきとがいるからまいにちがたのしくて、まいにちいっしょにがっこういくのができてうれいんだよ。」「もううまれてこなきゃよかったっていうな。」っていわれました。「うまれてこなきゃよかったってこはだれひとりいらないんだ。」そういったときのおにいちゃんは、ないていました。そのときぼくは、ぼくもいきていていんだ。ぼくみたいなこでも、ないてくれるひとがいるんだと、おしえてくれました。おにいちゃんのおとうととして、うまれてこれてしあわせです。おにいちゃん、ぼくのおにいちゃんでありがとう。おにいちゃんぼくは、ずっとおにいちゃんのおとうとです。これからもよろしくね。だいすきだよ。ゆきとおにいちゃん。

評価のポイント

客観的に自分や周囲をとらえつつ、素直で前向きな思いを無駄なく書きあげている。